

# 子どもが生き生きと活動する社会科の学習指導の工夫

## ～ コンピュータの効果的な活用をとおして ～

### 目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究仮説	2
	アンケート	3
III	研究の全体構想図	4
IV	研究の内容と意義	5
1	社会科に求められているもの	5
2	社会科における個別化・個性化	5
(1)	個と集団	5
(2)	個人差と基礎基本	6
(3)	個人差	6
(4)	個のとらえ方	8
(5)	個人差に応じた学習指導	9
3	効果的なコンピュータの活用	11
(1)	コンピュータを使う立場	11
(2)	情報教育と社会科	12
(3)	CAIの分類	13
4	KiT	14
(1)	KiT紹介	14
(2)	KITの特色	14
(3)	自作ソフトの作成	15
V	授業実践	17
1.	単元名	17
2.	指導観	17
3.	単元目標	17
4.	単元の構造	18
5.	指導計画	19
6.	地域教材の開発	19
7.	本時の目標	19
8.	本時の展開	20
9.	評価	21
10.	授業後の反省	21
11.	自己評価表	22
12.	座席表	22
VI	研究のまとめと今後の課題	27
1.	研究のまとめ	27
2.	今後の課題	27
3.	おわりに	27
	(おもな参考文献・引用文献)	27

宜野湾市立嘉教小学校

新垣英司

# 子どもが生き生きと活動する社会科の学習指導の工夫

## ～ コンピュータの効果的な活用をとおして ～

宜野湾市立嘉数小学校教諭 新 垣 英 司

### I テーマ設定の理由

我が国は、科学技術の急速な進歩や経済の発展、国際化や情報の高度化など、人間生活の急激な変化をもたらしている。これからも、ますます変化するであろう21世紀に対応するために、学習指導要領の改訂が行われ平成4年度から完全実施されることになった。

新学習指導要領の改訂の基本方針として「社会の変化に主体的に対応できる能力を持った心豊かな人間の育成」を掲げ、生涯教育の基盤を培うという観点から、次の4つのねらいをあげている。  
①「心豊かな人間の育成」、②「基礎・基本の重視と個性教育の推進」、③「自己教育力の育成」  
④「文化と伝統の尊重と国際理解の推進」などであり、主体的に学習に取り組む意欲的な子どもの育成が一層重視され、児童中心の授業への転換が望まれる。

社会科の目標は、「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる民主的・平和的な国家・社会の形成者としての必要な公民的資質の基礎を養う」ことであり、社会事象をとらえる過程での、観察力・資料活用能力の育成が大変重要である。また、情報が氾濫する今日、情報を処理活用する能力である情報リテラシーといった能力が重要視されている。

普段の授業における調べ学習でも、課題とレポートの内容が合わなかったり、教科書の丸写しであったり、最後まで課題を追求できないといった資料を上手に活用できないような場面が多々見られた。その原因として次のような事が考えられる。

- ① 課題に対しての興味・関心が弱く、追求意欲が持続できない。
- ② 資料の調べ方が十分指導できていない。
- ③ 資料の処理・活用の仕方が十分指導できていない。

以上の理由が考えられる。

社会科の授業においてコンピュータを活用することにより、個々の児童の、興味・関心や学習速度、等の個人差に対応することができるだろう。また、社会科の特性として、教材に時間的・空間的距離があり、その時代に生きる人々やその土地に住む人々、働く人の悩みや喜びといった、真に生きる人間の姿を間接的にしかとらえることができないが、パソコンを活用することにより、時間と空間を超えた相互作用が可能になると考えられる。また、データ・ベースからの情報検索やコンピュータのグラフィック機能は子ども達が資料を処理・活用する際多面的な分析を可能にするだろう。また、これまでの教師中心の一斉画一授業から、個別・個性化といった児童中心の授業へ転換する際に教師の教育機能を補充・拡充し、指導力を向上させるために有効だということである。

以上の事から、社会科においてパソコンを活用した学習指導の工夫を研究することにより、子ど

も達が意欲的、主体的に学習に取り組めるのではないかと考え、本テーマを設定した。

## II 研究仮説

社会科は情報化という社会の変化に対応するための重要な教科である。これからの情報化社会に生きる人間にとって、正しい社会的判断力が大切になってくる。社会的に正しい判断をするためには、観察力、資料選択・活用能力等といった力を必要とする。普段からの授業において、これらの諸能力の育成を図る必要がある。特に資料選択能力や資料活用能力等といった能力は、授業での発展として調べ学習を通して育成するようにしているが、問題解決学習の途中で追求意欲がなくなり中途半端で終わってしまったり、深まらなかったりする。こういうことが続くと課題を追究し解決した後の成就感や満足感などの喜びが味わえず、問題解決学習が嫌いになったりする。成就感や満足感の喜びを経験させると、次の課題解決への意欲が生まれると考えられる。

児童が主体的に、生き生きと学習に取り組むためには、学習の方法や学習内容を工夫することが大切であると考え。そのための具体的な学習指導のモデルを作り出すことが大切である。児童の興味関心に応じた教材の開発や、課題を選択したり、学習活動の中で学習スタイルに応じて資料を選択させたり、自由に表現させるなどの工夫を取り入れれば、児童が主体的に学習に取り組むだろうと予想する。

個々の児童が課題を追究し解決するための方法を模索するため、子どもたちの実態把握のためのアンケートを実施した。それによると、社会科の『好きな子』は全体の10%しかいない。大体の80%の子が普通と答えている。授業の方法については『社会見学が好き』と答えた子は80%で、『積極的な調べ学習になると好き』と答えた子は15%にまで減少している。また、コンピュータに対するイメージでは、85%の子が『楽しそう』と答えている。これらのことから、個々の児童の能力や個性にあった学習を展開すれば、個々の児童が生き生きと学習をするだろうと考え、次の研究仮説をたててみた。

### 研究仮説

#### 仮説1

個々の学習スタイル差に応じた学習指導を工夫すれば、学習意欲が高まり主体的に学習に取り組むようになるだろう。

#### 仮説2

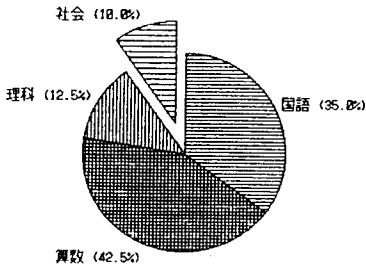
個々の学習速度や興味・関心差に応じ、コンピュータを効果的に活用すれば、学習意欲が高まり、生き生きと活動するようになるだろう。

#### 仮説3

教育機器の効果的な活用や地域素材の教科化、学級の実態に応じた学習ソフトの開発など学習教材を工夫すれば、学習意欲が高まり主体的に学習に取り組むようになるだろう。

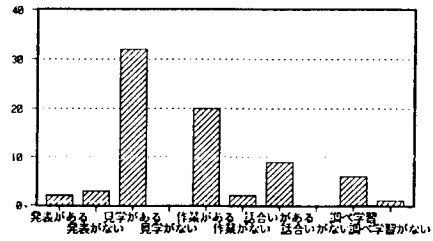
# アンケート資料

1. どの教科が好きですか？



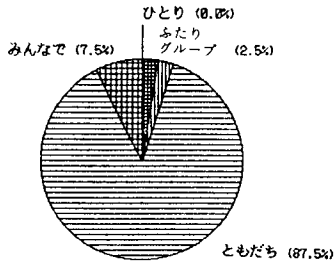
社会科はわずか10%である。

2. どんな授業の方法が好きですか？



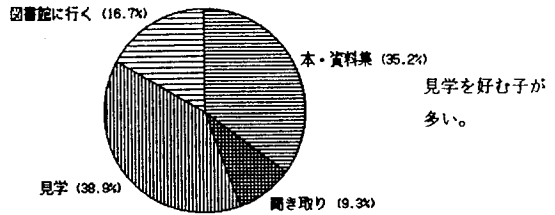
見学等の体験的な学習を好む子が多い。

3. どんな授業の形が好きですか？



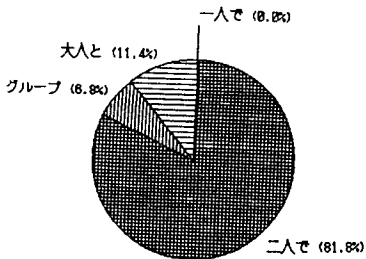
友達と勉強したいと思っている子が多い。

4. 調べ学習で好きな調べ方はどれですか？



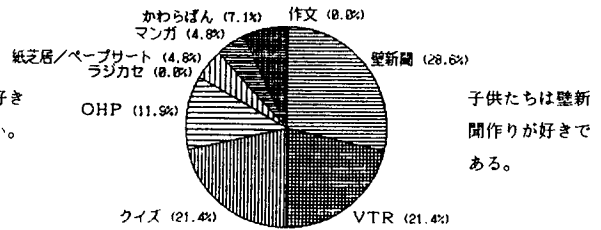
見学を好む子が多い。

5. 調べる時誰と調べますか？



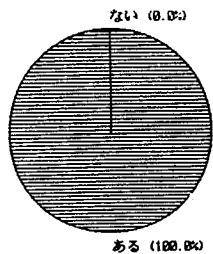
一人学習が好きな子がいない。

6. どんな方法で発表したいですか？



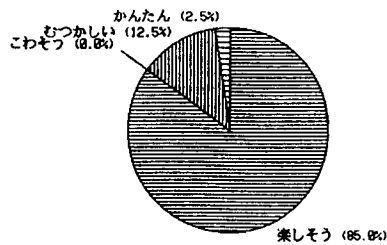
子供たちは壁新聞作りが好きである。

7. コンピュータで遊んだことがありますか？



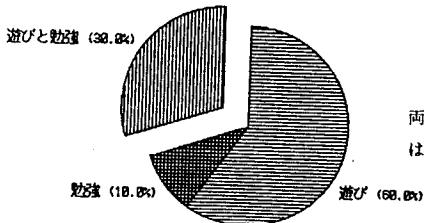
100%の子がファミコンで遊んだ経験がある

8. コンピュータに対するイメージは？



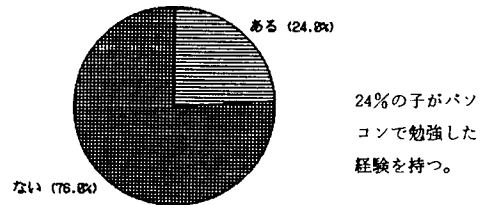
34の子が楽しそうというイメージを持っている

9. パソコンをどんなことに使いたいですか？



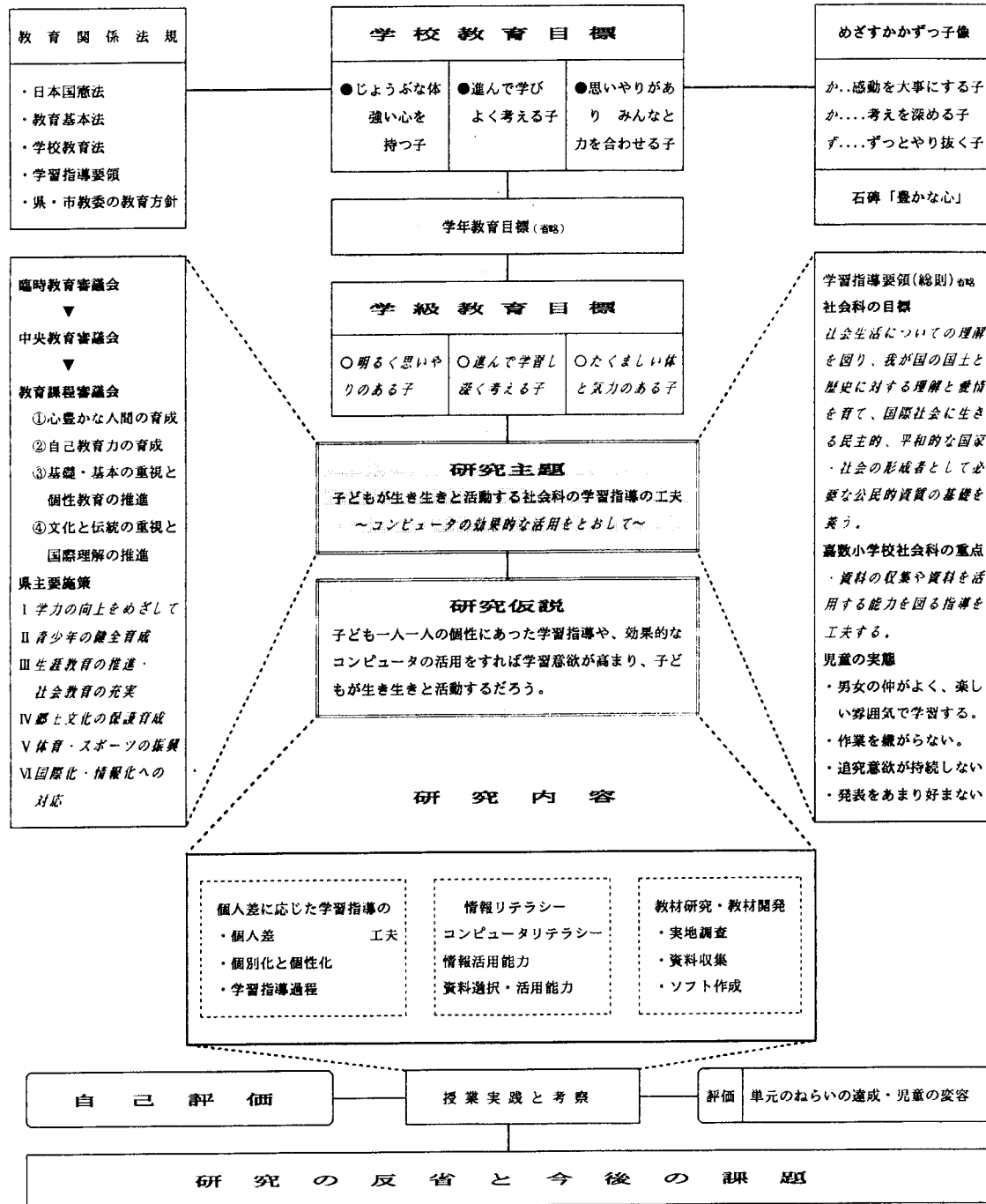
両方と答えた子は30%である。

10. パソコンを勉強で使ったことがありますか？



24%の子がパソコンで勉強した経験を持つ。

### Ⅲ. 研究の全体構造図



## IV 研究の内容と意義

### 1. 社会科に求められているもの

現代社会は情報化社会であり、めまぐるしく変化する時代である。社会の急激な変化に主体的に対応するために社会科においても内容の改善を指向している。

社会科は国家・社会における生活の実際を内容として取り上げる教科であるので、社会の情報化という実態についての理解を図り、情報化社会で生活するための情報処理・活用能力などの啓発を目指す必要がある。したがって、現代の情報化社会における社会科は情報教育をその内に取り組みなければならない必要性を持っている。

### 2. 社会科における個別化・個性化

#### (1) 個と集団

個とはいうまでもなく一人の人ということである。この人間社会は一人一人「個人」から成り立っている。「個」とは集団を前提としていものである。つまり、「個」によって「集団」は構成されているのである。

これを教育の場面で考えるならば「教育における集団的個人主義」は個人学習（一人学習）、個別学習を基調とし、集団学習や一斉学習を認めるものである。「集団」と「個人」は同時並存し、尊重され合わなければならない。

「個」を尊重することは、決して「集団」を無視することではない。かえって「集団」を活用することである。もちろん、時に「集団」は「個人」を抑圧し、その言動の自由を制約することがある。その時、それを認めてしまえば「個人主義」にはならない。それは「集団」を否定することではなく、むしろ「集団」としての質を高めるためである。

教育における「個別化・個性化」は、個人学習、個別学習を基調とし、集団学習、一斉学習を認めるものとなる。「個」は「集団」の中で生きるのである。

「個」を生かすとは、「集団」という全体の場でその子個有の価値を発揮し、「個」の役割を果たして、全体の活動に貢献することが、「個が生かされる」ということである。そのような集団的活動の中で一人一人の「個」をうもれさせず、逆に、集団の質を高め、全体として優れた集団にするために「個を生かす」ことが目指されなければならない。

臨教審の最終答申では、「今次教育改革において最も重要なことは、これまでの我が国の根深い病弊である画一性、硬直性、閉鎖性を打破して、個人の尊厳、個性の尊厳、自由、自律、自己責任の原則、すなわち、個性重視の原則確立することである。」という記述がなされている。このことから、従来の集団観をもう一度考え直す必要がある。

今までの集団観では、大体において、「個を抑えるもの」「個性を奪い、全員を一つの集団的特性に統一するもの」が望ましいと考えられてきた。いわゆる等質ないし同質集団である。しかも、ほとんどすべての面で、その「等質性・同質性」が要求され、「異質性」は拒絶され、排除される。「目立つものは“めざわり”」とされ「でる杭は打たれる」式の集団であった。このような集団観に固執し続けるならば、いくら「個を生かす」といったところで、今の集団

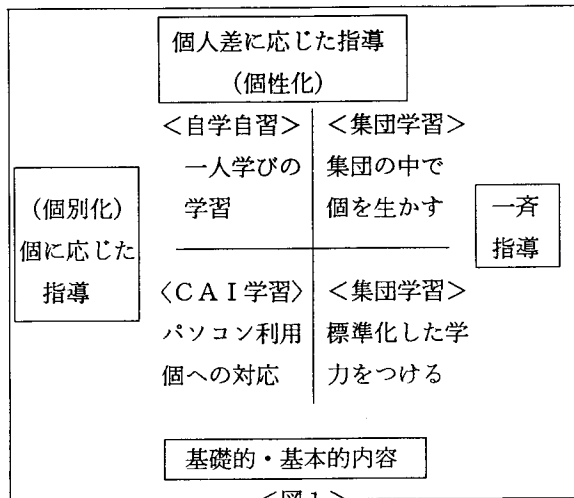
のとらえ方、見方、考え方から、脱却しない限り、実現されるものではない。

むしろ、「集団は異質なものがなければならない。」「多様な個性をもつ個が、集団の圧力に負けずに自らの個性を主張するようであればならない。」という集団観を基本的なものとしなければならない。当然、「集団」を壊してしまうような「個」あるいは「個性」は、認められるわけにはいかない。自分の「個」や「個性」は、それを認めてくれる相手や集団の「個性」を必要とするからである。一つ一つの音が重なりあって美しいハーモニーとなる。また、オーケストラはいろいろな楽器や奏者の織りなす音色や調べが重なりあってこそ、人々を感動させる曲を奏でることができるのである。

実際の授業においても「個を生かし」「個を伸ばし」「個を高める」ためには、個と個がぶつかりあい、理解し合い、協力し合う、といったような“切磋琢磨”集団での磨きあいが必要である。

## (2) 個人差と基礎基本

「個性を生かす」ことと、「基礎的・基本的な内容の重視」の関係について考えてみる。教育課程審議会の答申において、「国民として必要とされる基礎的・基本的な内容を重視し、個性を生かす教育の充実を図ること」とある。この二つの関係は決して相反するものではない。個性を伸ばし、創造的で、豊かな個性をはぐくむためには、基礎的・基本的内容の充実が必要であり、無視できないものである。つまり、個性は、「基礎・基本」の土台の上に築き上げるものであると考える。また、実際に基礎・基本の定着を図るとき集団での指導と、個別での指導が考えられる。次に、その関係を<図1>に示した。学習指導をX軸に指導内容をY軸においてみた。X軸の学習指導は両端に一斉指導と個別指導をおき、Y軸の指導導と個別指導をおき、



Y軸の指導内容では下に基礎基本、上に個性化を配置した。そうすると4つのタイプの授業を作り出すことができる。

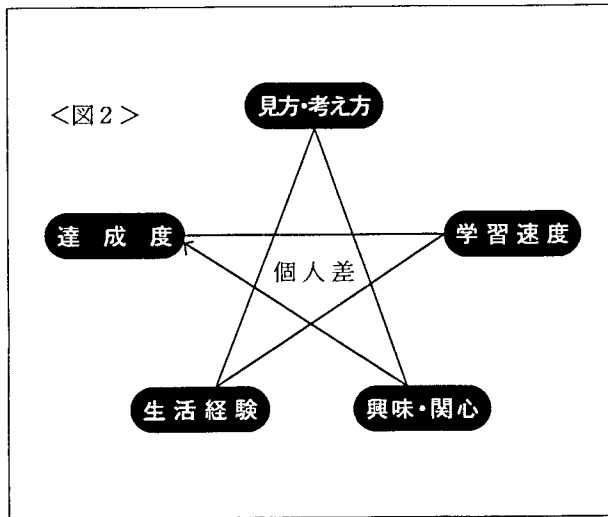
- ①学習指導は一斉で指導内容は基礎・基本  
一斉学習(標準化した学力をつける)
- ②学習指導は個別で指導内容は基礎・基本  
個別学習・CAI学習
- ③学習指導は一斉で指導内容は個性化  
集団学習(集団の中で個を生かす。)
- ④学習指導は個別で指導内容は個性化  
自学自習、(一人学びができる。)

<図1>

以上の4タイプの授業に分けられるが、最終的には自己教育力の育成を目指し自学自習まで高めたい。

## (3) 個人差(どの子も光る、どの子もスターだ!)

個を生かすためには、個人差について理解する必要がある。人間は「十人十色」といわれるように、まったく同質というようなことはない。



個人差に応じた指導をするためには、まず、子ども一人一人は違っているという認識が必要である。その違いに注目して、それに適切に対応することが求められるのである。では、一人一人の違い、個人差とはなんなんだろうか。それを明確にするのが文部省から出された「小学校教育課程一般指導資料Ⅲ」に示された、個人差の視点である。①達成度、②学習速度、③見方・考え方、④興味・関心、⑤生活経験)の五つの視点がある。これを、<図2>に構造化して示した。

これら五つの視点は授業をするにあたって、孤立したものではない。これらの視点を総合的に駆使してはじめて個人差に応じた学習指導ができると考える。授業のモデルとして興味・関心差でモデルを作ったからといって、他の視点はどうでもいいかという、そうではない。子どもの学習速度や生活経験、見方・考え方、達成度などの個人差も教師の心の中では配慮しておく必要がある。そのような授業でこそ、どの子ども、光り輝く、スターになれる。また、星型にしたのは、五つの視点を一つの線でつなぐためであり、その内のどれか1つが欠けると星にはならない。

#### ① 達成度の個人差

達成度とは授業のねらい(目標)をどの程度習熟できたかが、文字どおりの達成度である。ある目標を掲げて指導しても、子どもの達成度はさまざまである。

#### ② 学習速度の個人差

学習速度には個人差がある。子どもの作業能力と大きく係わってくる。授業という限られた時間の中で速くできる子もいれば、時間のかかる子もいる。また、速くできるが粗雑な子もいれば、遅くても確実にできる子もいる。このような作業能力の違いや、学習速度の違いに正しく対応することが求められている。

#### ③ 見方・考え方の個人差

見方・考え方や学習の進め方の違いとは、価値観と密接に関係してくる。子どもに限らず、すべて人は、その人なりの価値観により物を見たり、考えたりするのである。一人一人の子どもが、その子なりの発想やその子なりの見方・考え方を示す。それが社会科という教科では、特に大切にされなければならないのである。

#### ④ 興味・関心の個人差

一人一人子どもには、興味・関心の違いがある。「蓼食う虫も好きずき」である。一人一人の子どもの興味・関心を正しく伸ばすということは、興味・関心のないものがあるようにさせるとのことよりも、興味・関心のあるものに注目し、その子の成長に正しく結び付け



るということである。「好きこそものの上手なれ」というように、好きなことは伸びることなのであり、一人一人の特性を伸ばす原動力として、重要な意味を持つ。

#### ⑤ 生活経験の個人差

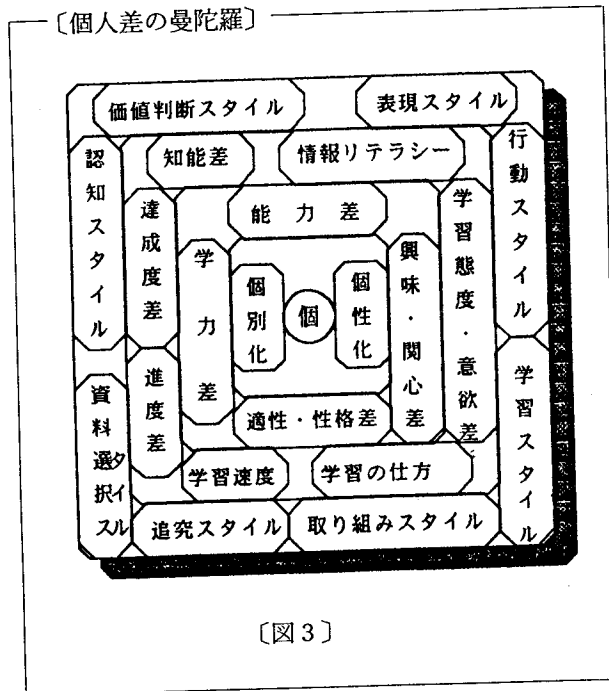
生活経験の違いとは、子どもをとりまく生活環境は一人一人違い、異なった環境の中で生活しているということ、それが子どもの考え方や行動に大きな影響を及ぼしている。一人一人の生活経験の背景を的確にとらえ、それを授業に生かすことが求められる。

◎ 個人差のとらえかたは、たくさんの研究者がその視点について、発表している。

個人差をとらえる視点として、学力的概念の個人差と適性的概念の個人差からとらえる方法、個別化と個性化からとらえる方法等さまざまである。

個人差は、その視点によって分類の仕方も変わってくるので、なかなか理解しにくい面がある。それで、個人差を系統的に分類するのではなく、全体的にとらえることを試してみた。それが、左の<図3>に示した個人差の曼陀羅である。

系統性はないので、学問的な価値はないが、個人差を多面的にとらえることができ、どういった個人差があるのか一目で理解できると思う。(文様が曼陀羅に似ているので個人差の曼陀羅と呼ぶことにした。)



#### (4) 個のとらえ方

個人差に応じた指導をするためには、個人差のとらえかたがとて大切になってくる。いくら個人差を論じたところで個人理解がなされないのでは意味がない。個人差をとらえる方法として質問紙法(アンケート)、検査法、テスト法、実験法、面接法、観察法等がある。テスト法や質問紙法、面接法、検査法では個人差の一面しか見えてこないという欠点がある。実験法もその点で共通するだけではなく、特別な設備を必要とし日常的で自然な状態での個人差をとらえるのが難しい。学校で利用できる最も効果的な個性理解の方法が観察法である。確実に個人差をとらえるならば、普段から児童・生徒をよく観察しておくことが、大切である。優れた児童理解は、個人差に応じた学習指導の基本であるが、教科においてだけでなく、道徳、特別活動、においても重要であり、優れた学級経営の基盤もとなる。

今回の研究では、学級を離れていたため、質問紙法にたよってしまったが、個人差を適確にとらえるためには、観察法やその他の方法との複合型が望ましいと考える。



●授業システムのモデル

図5 個別化教育を志向した授業システムのモデル (ひとつの仮説として)  
全教連(案)

基本モデル	サブモデル	その説明
学習到達度別モデル	(1)一斉授業補足モデル	一斉授業のうち、生徒の学習到達度を評価し、その違いに応じて、必要な補足指導を行う。放課後、宿題あるいは自由裁量時間などを通して。
	(2)習熟度別グループモデル	学習の到達度、習熟度の違いに応じて、学習集団を編成し、指導するやり方。
進捗別モデル	(3)単元内進捗別モデル	ある単元の中では、生徒の進捗の違いに応じて自由に進ませるが、次の単元に入るとスタートラインをそろえて進めるやり方。
	(4)自由進捗モデル	できるだけ生徒の進捗を自由にさせる。したがって無学年制を志向していくことになろう。
学習適性モデル	(5)学習スタイルモデル	学習者の学習スタイルの違いに応じて学習を進める。例えば、AV教材を多用し方が効果的である子ども、図書教材中心で効果的である子ども、1人で学習しても効果的である子ども、あるいは、グループに入れた方が効果的である子どもなどの違いを、学習スタイルの違いと捉えよう。
	(6)学習態度モデル	学習者の学習態度の違いを考慮して学習のさせ方を工夫する。例えば、学習に変化をつけたい子ども、特定の子どもなどの特徴を考慮して学習を進める。
興味・関心モデル	(7)基本プラス選択モデル	一斉授業まで基本学習をさせたのち、生徒の興味・関心に応じて、内容を選択して学習を進める。
	(8)学習コース選択モデル	学習のゴール、つまり、授業の目標を決めておいて、その目標に関連する学習コースを、生徒の興味・関心に応じて自由に選択させるやり方。
コンピュータ利用モデル	(9)CMI	生徒の学習データをコンピュータとの対話で、学習が進められる。
	CAI	生徒とコンピュータとの対話で、学習が進められる。

全教連の「個別化教育を志向した授業システムのモデル」を見てみる。この中で個性化に対応するモデルを以下に示す。

- 学習適性モデルの [学習スタイルのモデル]  
AV教材が好きなお子、図書教材が好きなお子、一人学習が好きなお子、グループ学習が好きなお子等学習者の学習スタイルの違いに応じて学習を進める授業システム。
- 学習適性モデルの [学習態度モデル]  
学習者の学習態度の違いを考慮して学習のさせかたを工夫する授業システム。
- 興味・関心モデルの [基本プラス選択モデル]  
一つの単元で基本学習を一斉授業で行い、その後を、個々の興味・関心に応じて内容を選択していく授業システムである。
- 興味・関心モデルの [学習コース選択モデル]  
授業の目標は決めておいて、学習コースは個々の興味・関心に応じて自由に選択させる授業システム。

○コンピュータ利用モデル [CAI]

生徒とコンピュータとの対話で学習が進められる。

個人差に応じた学習指導のモデルとして上のような多様なモデルが考えられる。個人差に応じて授業の形態も変化させていかなければならない。子供には多様な個人差があり、その個人差と同じだけのモデルがあるはずである。教師はさまざまな角度から子どもを見つめ、子ども理解を図り、それをもとに、授業の指導課程を考えることが大切である。

また、教師も一人の人間として独自の個性を持つものである。自己のキャラクターを生かし、子どもたちのキャラクターも生かし、個性的な授業をすることが大切だと思う。



### 3. 効果的なコンピュータの活用

#### (1) コンピュータを使う立場



##### ① コンピュータの役割

新学習指導要領の告示により、急速に学校へのコンピュータの導入が行われた。「なぜ、コンピュータなのか?」という声も聞かれるが、確かにコンピュータがなければ我が国の学校教育が成り立たないというわけではない。現に従来の一斉指導では多大な効果をあげてきた。しかし、私たちを取りまく社会環境がどんどんコンピュータ化されていく高度情報化社会にあって、教育現場だけが隔離された世界であってはならない。学校へのコンピュータの導入を意味あるものにするためにも、コンピュータに対する正しい認識が不可欠である。

“コンピュータは万能である。”といったようなコンピュータ神話が生まれ、コンピュータを過大評価する傾向があるが、コンピュータはそれ以上でもそれ以下でもない。あまりにもコンピュータを過大評価しすぎると、思ったほどの成果が上がらず、後で苦労することになるし、逆に過小評価するとコンピュータ機能を使いきることはできない。コンピュータは与えられた情報(データ)だけを処理する道具(ツール)なのである。教師が、授業において活用する際、気をつけることは、コンピュータを使った学習だけが大切なのではないということである。労作を軽視せずに、観察や実験、資料活用、製作、見学などの直接体験も重視しなければならない。体験は人間形成にとって非常に大切である。個別・個性化といった授業へ対応するための、教師の支援をする道具(教具)としての利用方法を考えることが大切になってくる。

コンピュータを活用する方法として次の二つの利用法がある。コンピュータで教えるのか、コンピュータを教えるのかということである。言い替えると、学習の道具か、学習の内容か。ということである。小学校においてはコンピュータに触れ、馴れ、親しむのが情報化対応のねらいであり、前者の方法が望ましい。

##### ② コンピュータ活用の基本的な考え方

- パソコンがあるから使うのではなく、「パソコンでなければならないこと」「パソコンを使えば大変効果があること」といった視点からパソコンを活用する
- パソコンは子どもの学習を支援・援助する道具(ツール)の一つである。
- 基本的な活用の仕方として、パソコンを全員が一斉に同じように使うのではなく、あくまでも個別学習のための機器としてとらえ、子ども一人一人の個性、適性にあった使い方をする。(中学校技術家庭科における情報基礎のようなパソコンそのものについての学習等の場合は別である。)
- パソコンは万能だからこれさえあればいいという考えではなく、あくまでも学習環境・道具の一つとしてとらえ、子どもの適性や必要に応じて他の教育機器とのメディアミックスを図り効果的な活用をする。(パソコンもメディアの一つである。)
- パソコンに指示されて動くという“受け身のな子”をつくらないために、子どもが積極的にパソコンを活用できるような「データベース的な利用」を工夫する。

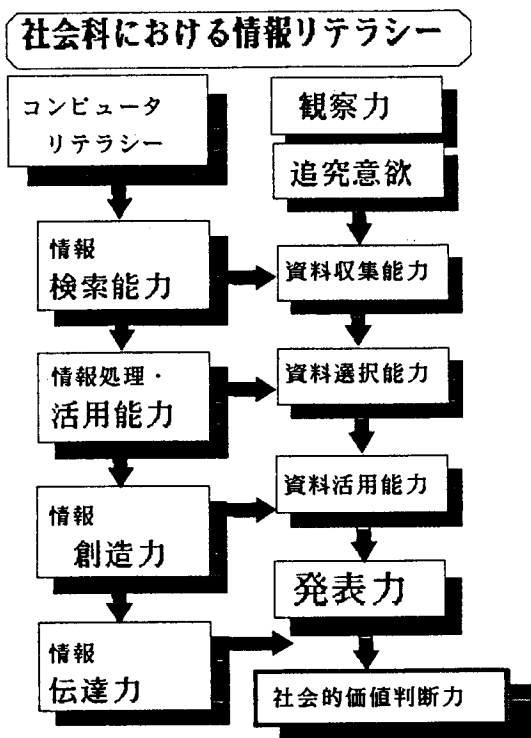
- 各教科の時間以外の時間（ゆとりの時間・クラブ）を利用して、文書・表・絵・等を作成したり、LOGOなどを使って簡単なプログラムを通しての思考活動や創作活動の体験をさせ、できるだけコンピュータに慣れ、触れ、親しませるようにする。
- CAIは個別化を支援するために作られたものである。

③ 個性化教育とパソコン

個別化における利用の特徴は、個々の学習能力や速度に応じた学習が可能になることである。子どもが自分でキーを操作することで自分のペースで学習を進めることができ、一斉指導では、とてもついていくことができない子ども、パソコンを使えばつまずきの原因に応じてヒントカードや治療のコースが選べ、しかも何回でも同じところにフィードバックすることができ適確なKRができるので、子どもの学力の定着に効果的である。パソコンは文字どおり“パーソナル”なのである。

個性化の面では、子どもが主体的に学習課題を選択・設定し、その課題を解決するためのデータを集めたり（問題解決学習）、シミュレーション学習（疑似体験）を行うのに用いる。例えば、予めデータベースを構築しておき、子どもは自分の欲しい必要なデータをパソコンから取り出し、その情報を処理・活用し、自分の力で学習を進めていくことができるので、興味・関心に応じた学習が可能になる。

(2) 情報教育と社会科 <図6>



① 情報教育

「情報教育」という言葉の概念は規定が不明確であり、「情報処理教育」と同義語になったり、広く「教育」という用語と同じになったりする。そこで自分なりに定義してみることにした。

☆「情報教育」とは、現代の情報化社会に対応するための情報処理能力・情報活用能力の育成を目指した教育である。

☆「情報処理教育」とはコンピュータを活用する能力やコンピュータ自体を開発する能力の育成を目指した職業教育である。

② 情報リテラシー（水越氏の説）

リテラシー（Literacy）とは、“識字”と訳するが、識字とは、読み書きができることを意味しているが、原語のリテラシーには教育があること、教養があることもふくまれている。

情報リテラシーの意味をとらえる場合、狭義では、コンピュータリテラシー（コンピュータ等を利用したコミュニケーションの能力）、広義ではメディアリテラシー（諸メディアを利用したコミュニケーション能力）としての意味がある。

情報リテラシーとコンピュータリテラシーとはしばしば同じ意味で使われている。しかし、情報リテラシーは情報活用能力と言い替えることができる。情報活用能力には、次のような能力があげられる。

情報収集力・選択力（メモをとりながら話を聞く力）  
分類・整理能力（ノートの整理）  
情報検索能力（分類表・目次、索引、パソコンによる検索）  
情報の表現・伝達力（表やグラフの作成、地図・作文・レポート、話す力）  
情報処理能力（思考力・判断力、操作能力）

つまり、情報活用の中に資料活用能力がふくまれている。このことから、社会科で目指す能力は情報リテラシーと言い替えることができる。その関係を上の<図6>に示した。

社会科は情報化社会にいきる人間形成にとって重要な教科である。この社会科で最も必要な資質はなにかというと、正しい社会的判断力である。正しい社会的判断力とは、自己の意志を決定し、特定の物事や方向を選択する能力である。社会的判断力を駆使するためには、観察・資料活用能力、社会生活についての知識・理解を必要とする。このことから情報処理能力というのは単に機械的な情報の処理を指すのではなく、社会的判断力を使うために役立つものでなければならないと考える。

### ③ コンピュータの利用について

一般に、コンピュータと学校教育との関わりについて考えると、“コンピュータを教える教育”（CMI）と“コンピュータで教える教育”（CAI）とがある。

●CAIとは、Computer Assisted Instructionの略で、直訳すると「コンピュータに支援された教育となる。CAIは、子どもと教材とが向き合う個別指導を主とした利用法である。

●CMIとはComputer Managed Instructionの略で、教師の活動を支援し、授業を改善することを目的としている。CMIは、主として一斉指導のためのコンピュータの利用方法であり情報処理教育のことである。

### (3) CAIの分類

#### ① CAIのシステム構成の分類。

○スタンドアロン型：1台のパソコンを1人の学習者が占有しコースウェア（学習ソフト）、コースウェア実行機能や学習機能もそれぞれ独自で持っており個別学習に適している。

○ネットワーク型：学習者個々のパソコンが通信回線でホスト機（教師用パソコン）と結ばれており、相互で情報（データ）の送受信が可能のため、教師が個々の学習者の学習経過

などやクラス全体の把握をすることができる。

## ② C A I の学習形態 (学習モード) の分類

### ■ドリル型(DRILL & PRACTICE MODE)

問題を次々に提示して、学習者に反復練習を繰り返させる演習型方式。

### ■チュートリアル型(TUTORIAL MODE)

教師の役割をコンピュータにさせたマンツーマンの個人指導型の方式。

### ■対話型(INQUIRY MODE)

学習者がコンピュータに、問題や説明を要求したり、コンピュータがそれに応答して次の課題へ進む方式。

### ■ゲーム・シュミレーション型(GAME & SIMULATION MODE)

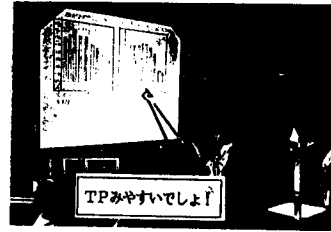
学習者がコンピュータ制御のゲームや模擬的、疑似的な体験を通し学習していく方式。

### ■問題解決型(PROBLEM SOLVING MODE)

会話型のプログラム原語を用意して問題解決過程に至る試行過程をプログラムに組み、それをコンピュータに実行させ、結果を得ながら問題解決をしていく方式

## ③ C A I の機能による分類

- フレーム型：C A I の学習コースを、フレームを単位として組み合わせて作ったコースウェアである。(F C A I)
- 自動生成型：コンピュータが提示画面の一部、または全部を作成してくれるもので、次に与える最適な問題も決定する機能を持つ。
- データベース型：学習者がメニューの中から、自分の必要な情報を検索して取り出していくタイプである。
- 人工知能型：A I (Artificial Intelligence)ともいう。コンピュータに人間の知的活動と同等の処理を行わせるシステム (エキスパートシステム)。



## 4. K i T

### (1) K i T 紹介 (K i T 入門 池田龍之介著より)

K i T はフリーソフトウェアとして、P C - V A N (N E C 系のパソコン通信ホスト局) に登録されています。市販ソフトと違い商業ベースの宣伝がないにも関わらず、K i T は教育関係者を中心に絶大な支持を得るソフトウェアに成長しました。企業やビジネスマンからも K i T を使ってみたいという声が沸き起こっています。

「K i T」作者の「パスカル氏」は広島県の安芸南高校で物理の先生をしています。

### (2) K i T の特色

- ① 「K i T」はビジュアルプレゼンテーションツールとしてあらゆるビジネスシーンに対応できるソフトウェアです。
- ② 伝えたい情報を、決められた時間内に、わかりやすく、的確に相手に伝える技術 (プレゼンテーション) というものが現代人にとって必要な能力になってきました。プレゼンテーションを成功させるための要素の一つに情報のビジュアル化があります。大量の文字や数値より

も、目でみてわかりやすいグラフやチャートが大きな説得力を持っているからです。

- ③ 「Kit」はマウスが使用でき、マウスで画面上のボタンを押すことによって、予め用意した写真・絵・文字・文章をハイパーカードのように次々と画面に表示させることができます。マウスの操作だけでパソコンを使いこなせるので子ども達がいやすいという利点があります。
- ④ 「Kit」はグラフィックを利用したオーサリングツール（物語を作る道具）です。Kitはスタックファイル（STK）と呼ばれる手順書にしたがってストーリーを展開して行きます。ユーザーの意図をそのままオーサリング（物語化）でき、その用途は無限にあります。
- ⑤ kitはフレーム型のCAIではないので、子ども達が自分の好きなもの、興味関心のあるところを、すぐに開くことができる。

例

- ◎講演会などで資料説明用にOHPまたは大画面と接続して使う。マウスで画面上のボタンを押すことができるので、自分で話しながら画面の操作ができる。
- ◎学校での授業用教材として使う。簡単なマウスの操作だけでパソコンを使うことができる。
- デパートなどの店内案内
- 全国観光マップ企業の業務マニュアル
- 宜野湾市マップ      ○商品説明      e t c.....

(3) 自作ソフト作成

【kit 伝統工芸】

① kitの画面





② kitのSTKのプログラム

```

on main
  krc sisa 291 149
  write "kit 伝統工芸" 38 0 @c5 @b3 @w2 @s5
  btn okinawa "沖縄" 22 112 @c3 @b7 @w2 @s3
  btn zenkoku "全国" 22 172 @c2 @b7 @w6 @s3
  btn modori "戻り" 22 234 @c4 @b7 @w4 @s3
  btn owari "おわり" 22 311 @c5 @b7 @w3 @s2
  line box 10 98 - 130 364 @c1 @l4
  undo set
end

on modori
  undo
end

on zenkoku
  img zenn
  write "全国の伝統工芸" 39 0 @c4 @b7 @w4 @s5
  btn yakimono "陶磁器地図" 20 105 @c1 @b3 @w1 @s2
  btn sikki "漆器地図" 20 147 @c1 @b3 @w1 @s2
  btn someori "染め織物地図" 20 191 @c1 @b3 @w1 @s2
  btn wasi "和紙・筆" 20 232 @c1 @b3 @w1 @s2
  btn modori "戻り" 20 272 @c4 @b7 @w4 @s2
  line box 12 96 - 219 367 @c4 @l6
end

on yakimono
  img yakimono
  btn modori 0 0
end

on sikki
  img sikitizu
  btn modori 4
end

on someori
  img oritizu
  btn modori 11
end

on wasi
  img wasitizu
  btn modori 8 7 - 639 391
end

on okinawa
  img denn
  write "おきなわの伝統工芸" 35 2 @c5 @b3 @w5 @s4
  btn okw "沖縄の伝統工業" 21 83 @c4 @b3 @w5 @s1
  btn tuboya "焼き物" 21 108 @c5 @b3 @w7 @s2
  btn skk "琉球漆器" 21 150 @c5 @b7 @w3 @s2
  btn orimono "染め織物" 21 194 @c5 @b2 @w7 @s2
  btn sonota "その他" 21 233 @c5 @b3 @w1 @s2
  btn mingu "民具" 21 271 @c4 @b7 @w4 @s2
  btn modori "戻り" 21 311 @c6 @b3 @w2 @s2
  line box 12 74 - 162 360 @c1 @l6
end

on okw
  crd 沖縄 230 6 @c1 @b7 @w1 @s1
  btn ok1 235 8 - 628 132
end

on ok1
  crd 沖縄1 172 46 @c0 @b7 @w4 @s1
  btn ok2 176 46 - 631 188
end

on ok2
  crd 沖縄2 212 123 @c1 @b3 @w2 @s1
  btn ok3 212 125 - 626 218
end

on ok3
  crd 沖縄3 186 173 @c1 @b7 @w5 @s1
  btn okinawa 191 179 - 617 380
end

on tuboya
  img yak
  btn sub1 "壺屋焼" 25 30 @c6 @b1 @w6 @s2
  btn sub12 "琉球焼" 25 72 @c6 @b1 @w6 @s2
  btn modori "戻り" 25 114 @c6 @b1 @w6 @s2
  line box 16 20 - 133 159 @c6 @l6
end

on sub1
  crd tuboya 139 18 @c1 @b7 @w5 @s1
  btn sub2 140 19 - 617 158
end

on sub2
  crd tuboya2 168 58 @c1 @b7 @w4 @s1
  btn sub3 171 63 - 624 261
end

on sub3
  krc tuboya 424 19
  btn sub4 428 23 - 623 176
end

on sub4
  krc karakara 214 107 @c8 @l0
  btn sub5 215 110 - 438 239
end

on sub5
  krc tobo2 414 188
  btn sub6 417 188 - 615 344
end

on mingu
  img mng
  btn mm0 "おきなわの民具" 40 31 @c2 @b5 @w2 @s2
  btn modori "戻り" 42 87 @c4 @b3 @w4 @s2
end

on mm0
  krc nougu 431 5
  btn mml 436 4 - 632 312
end

on mml
  krc gyogu 377 75
  krc gyogu2 193 225
  btn mm2 199 229 - 565 376
end

on mm2
  krc angama 159 2
  krc gakk1 343 38
  btn mm3 352 48 - 536 356
end

on mm3
  krc kuba 112 2
  krc ho-ti 282 228
  krc saba 366 105
  btn okinawa 375 112 - 565 238
end

on owari
  exit
end

```



## V 授業実践



### 社会科学習指導案

宜野湾市立嘉数小学校

指導者 新垣英司

5年4組 男22名 女18名 計40名

#### 1. 単元名 「伝統に生きる工業」

#### 2. 指導観

伝統工芸は、古くからその地域に根ざし、人々の暮らしに潤いを与えてきたものであり、地域の風土やそこで生きてきた人々の生活と密接な関係がある。先人の知恵と努力によって洗練され完成されてきた地域文化としての伝統工芸を継承し、さらに工夫して、地域の発展に役立てなければならない。

沖縄の伝統工芸品は、島国である特殊性故に本土と隔離され、そのため本土のそれにはみられない異質性を持っている。沖縄は、地理的には唯一の亜熱帯に属し、その気候風土は沖縄の伝統工芸に大きな影響力を与えている。また、歴史的には、古くから海上貿易により東南アジアや本土、中国等の影響を強く受け、それを継承発展させ絢爛豪華な独自の文化を華咲かせた。

沖縄の多彩な伝統工芸品も戦後の灰塵の中でゼロから再出発し、先人の努力によって見事に復興し、現在の全盛をきわめている。現代の急激に変化する情報化社会では、人々は、とかく新しいものに飛びつき、心の貧しさや思いやりの心の欠如が指摘されている。今一度、昔のもの、古きよき時代の日本の心を見直す必要があるのではないだろうか。本単元で「伝統的な工業」を学び、自国の伝統文化を尊重する心を培うことが、他国の伝統文化の尊重につながり、国際理解の推進になると考える。

#### 3. 単元の目標

我が国の伝統的な技術を生かした工業について、生産地や生産物を調べ、これらの工業に従事している人々の工夫や努力を理解させるとともに、手作りの良さについて考えさせるようにする。

##### 知識・理解

- ◎伝統工芸に従事する人々の工夫や努力について理解できる。
- ◎伝統工芸品の条件や特色がわかる。

##### 観察・資料活用能力

- ◎実際に伝統工芸品を見たり、ビデオ、写真、スライド等の視聴覚資料や年表、グラフ、地図などの資料を調べて、レポートや壁新聞にまとめたりすることができる。

##### 社会的思考・判断力

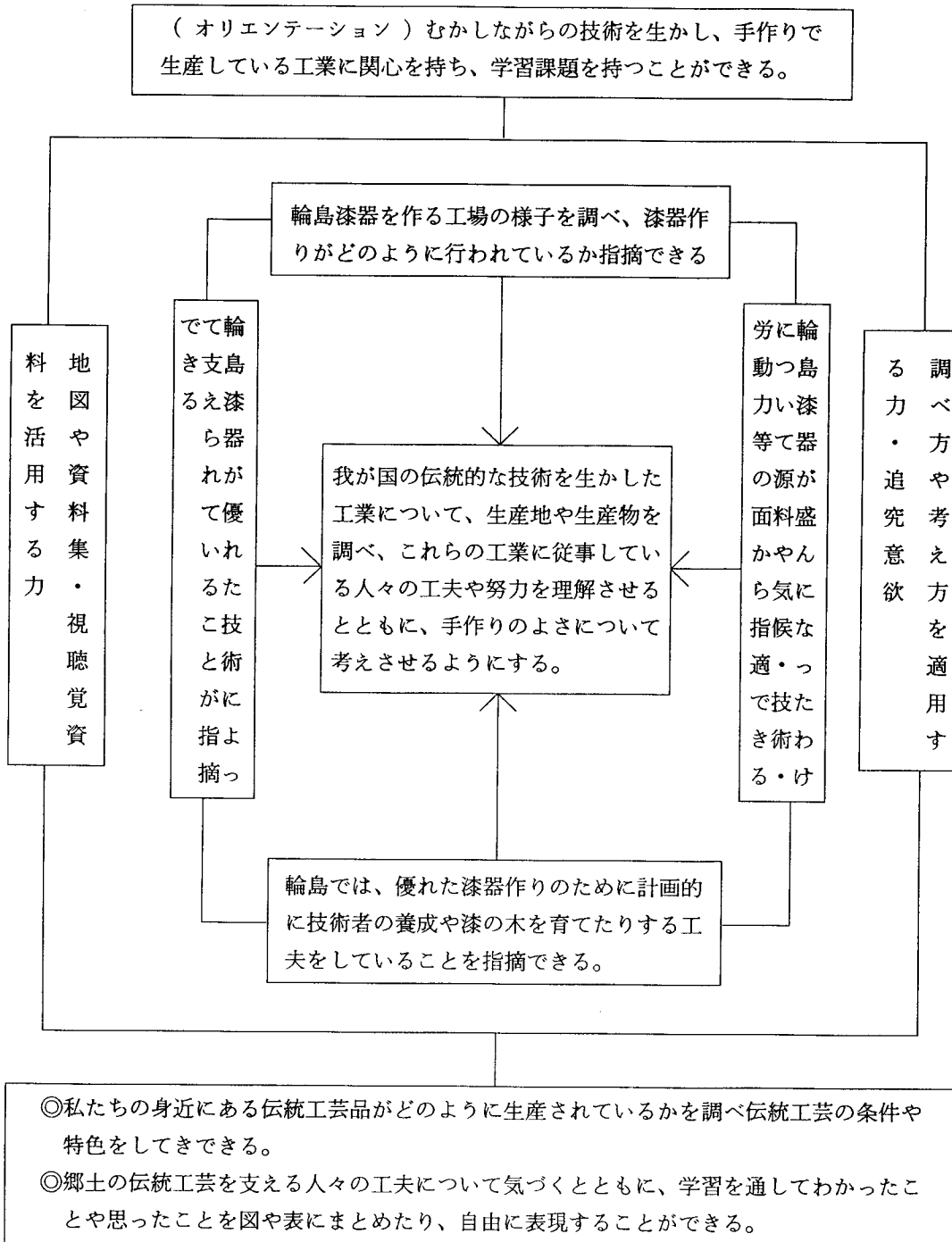
- ◎沖縄の伝統工芸は戦後、灰塵の中から立ち上がり、現在にいたっている。沖縄の伝統工芸

の発展に尽力した先人の工夫と努力について考えることができる。

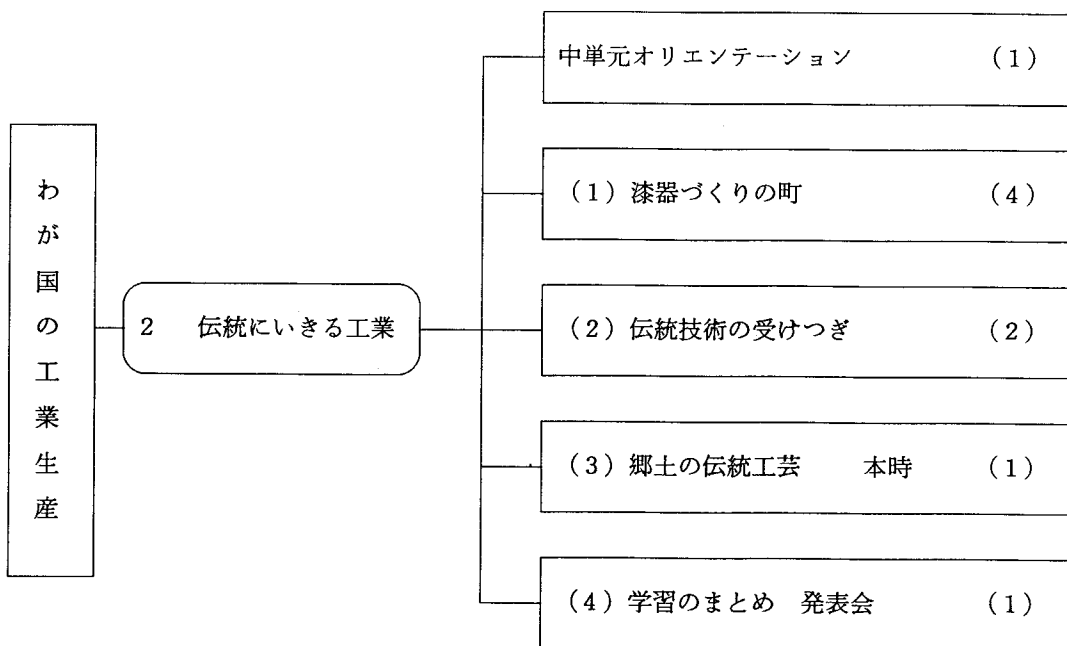
社会的事象に対する関心・態度

◎沖縄の伝統文化の発展に努めた人々の工夫や努力に共感し、郷土の伝統文化に関心を持ち大切にしようとする態度ができる。

4. 単元の構造



## 5. 指導計画（9時間）



## 6. 地域教材の開発



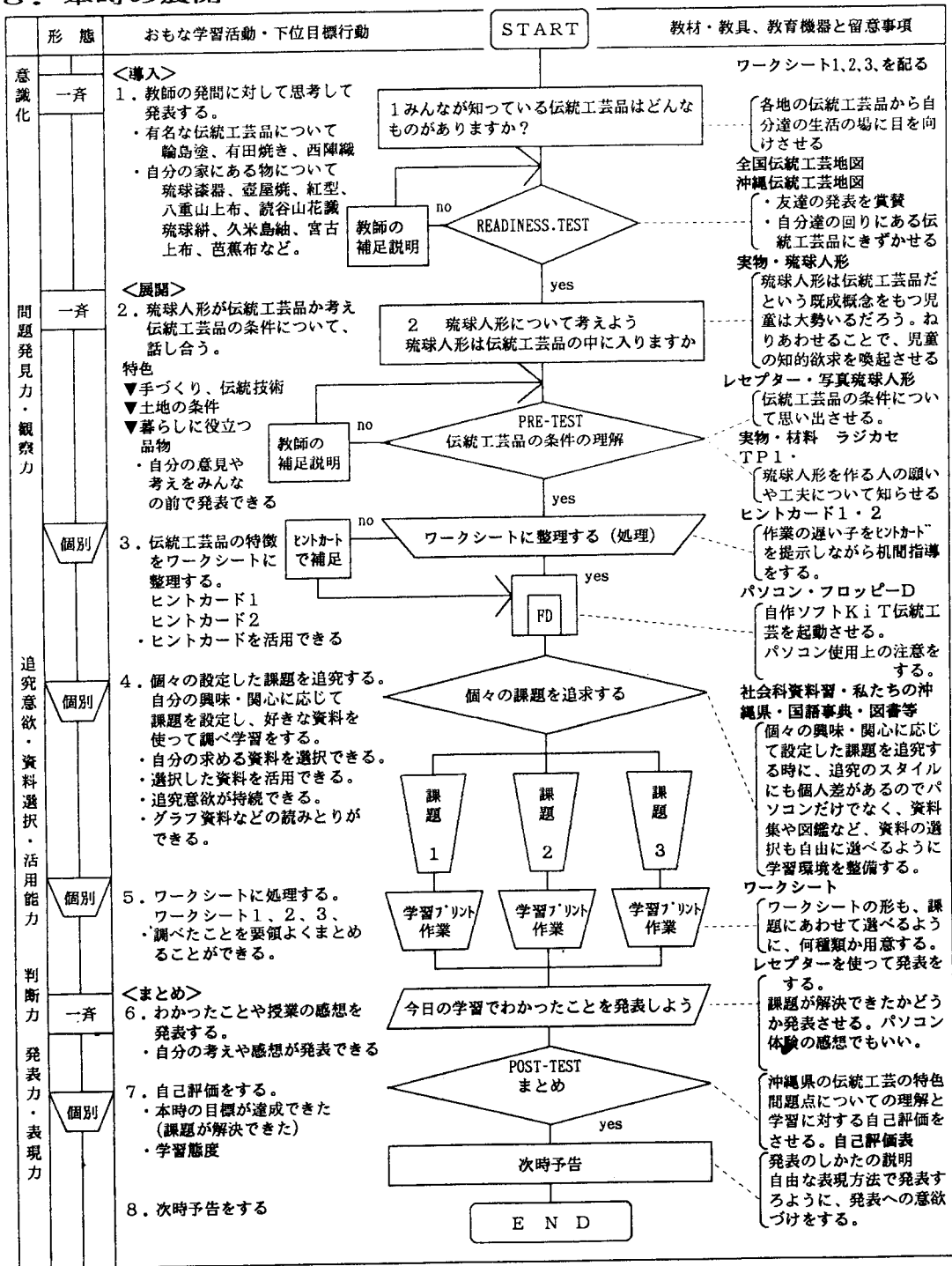
### <琉球人形>

宜野湾市の大山に琉球人形の店「オオヤマ」がある。琉球人形は沖縄県の重要な伝統工業品であるが、材料や部品を本土から取り寄せているため、伝統工芸品にはしていされていない。しかし、琉球人形製作組合（オオヤマ）では、“琉球人形を伝統工芸品に”という願いから、沖縄の素材を生かした琉球人形の開発に取り組んでいる。子どもたちは、紅型やかすり、芭蕉布が伝統工芸品であることを知っている子が多いと思うが、琉装の衣装をまとった琉球人形も伝統工芸品であると思っている子も多いと思う。琉球人形について考えさせ、伝統工芸品の条件をとらえさせたい。

## 7. 本時の目標

- 私たちの身近にある伝統工芸品がどのように生産されているかを調べ、伝統工芸品の条件や特色を指摘できる。
- 郷土の伝統工芸を支える人々の工夫について気づくとともに、学習を通してわかったことや思ったことを図や表にまとめたり、自由に表現することができる。

8. 本時の展開



## 9. 評価

- 沖縄県の伝統工芸品の特色がわかったか。
- 課題解決に必要な資料を選択し、活用できたか。
- 伝統工芸を支える人々の苦労や工夫について理解できたか。
- 自己の課題が解決できたか。
- 課題解決に意欲的に取り組んだか。
- 調べたことを発表することができたか。
- 学習を通してわかったことや思ったことを図や表にまとめることができたか。



## 10. 授業後の反省

<p><b>授業者の反省</b></p> <p>◎パソコンを取り入れた初めての授業形態であり、どうなるか心配していたが、思っていたより子ども達はパソコンを使いこなしていたので安心した。</p> <p>◎中学校を使つての授業だったので、すこし、子ども達が慣れるまで時間がかかった。</p> <p>◎調べ学習の時間をもっと確保する必要があると思う。</p>
<p><b>指導助言</b></p> <p>&lt;良い点&gt;</p> <p>◎子ども達はペルがなくても授業を終わろうとせず、学習へのくいつきが良かった。</p> <p>◎子どもはワークシートにメモをとりながら一生懸命頑張った。</p> <p>◎画像がはっきりしていて、子ども達の興味関心を引きつける素晴らしいソフトである。</p>
<p>&lt;悪い点&gt;</p> <p>◎子ども達は早くコンピュータを使いたいせいか、落ちつきがなかった。</p> <p>◎パソコンを使うのが初めてと言うことなので、操作の仕方について前もって練習させたらもっと良かったのでは。</p>



11. 自己評価表

11月16日(土)「伝統に生きる工業」・(郷土の伝統工芸) 名前( )			
今日の学習の評価をしましょう。	◎	○	△
A>伝統工芸の特色や条件がわかりましたか?			
B>伝統工芸を支える人の工夫や努力がわかりましたか?			
C>パソコンや地図帳、資料集などを活用しましたか?			
D>調べてわかったことや思った事をレポートにまとめることができたか?			
E>まじめに学習できましたか?			
F>友達と協力できましたか?			
G>パソコンを使った学習は楽しかったですか?			
<感想>			

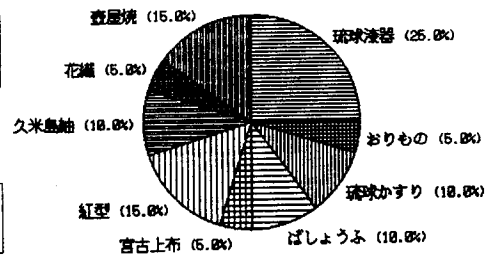


11. 座席表

座席表

19 仲里しずか 島あゆみ 琉球漆器	13 小橋川文 城間尚美 琉球かすり	7 安里博文 原田泰幸 久米島つむぎ	1 比嘉一生 伊波智秀 琉球かすり
20 仲村しのぶ 小橋真子 琉球漆器	14 知念さやか 中村希美 芭蕉布	8 鎌山武尊 多良間哲次 花織	2 喜友名隆二 金城由明 芭蕉布
21 仲宗根好美 島袋聖子 琉球漆器	15 安田佳世 伊波厚理奈 宮古上布	9 棚原敬 富村良 紅型	3 国仲優希 伊波正樹 壺屋焼
22 呉屋れいか 渡口みゆき 紅型	16 真栄平理絵 豊田真弓 おりもの	10 新城盛史 伊良部真 久米島つむぎ	4 平数謙一朗 伊波正則 壺屋焼
23 内間須賀子 藤枝なつ子 琉球漆器	17 瀧名波大志 瀧原次直生 紅型	11 島田博章 陸見哲矢 琉球漆器	5 岡松裕 高原剛 壺屋焼

● 個人課題の評価



○ 考察

子ども達はこの単元で輪島漆器の学習をしたので、琉球漆器について興味関心を示す子が多かった、と思う。



社会科ワークシート

11/16	11月16日	5年4組5時	城岡 尚典
-------	--------	--------	-------

＜授業に使用する工書＞

琉球銃は、どこから？

わかったこと

琉球銃は、高麗や中国の職工、木部ちくで造られる銃といふ。

銃は東南アジア、中国からつたえられたもので、おきなめり、たいしやく、つが、せんにや、せんにりよりみざいりょうとして、通していたため、おきなめり、は、てんし、本土の銃にも、おきなめり、おきなめり、あてえた。

友達と話をしてみよう

一日にくりしたことが、おきなめり、たいしやく、つが、せんにや、せんにりよりみざいりょうとして、通して、ということかな？

琉球銃は、いろいろなかからあつて、きれいな、おきなめり、たいしやく、つが、せんにや、せんにりよりみざいりょうとして、通して、ということかな？

琉球銃は、いろいろなかからあつて、きれいな、おきなめり、たいしやく、つが、せんにや、せんにりよりみざいりょうとして、通して、ということかな？

琉球銃は、いろいろなかからあつて、きれいな、おきなめり、たいしやく、つが、せんにや、せんにりよりみざいりょうとして、通して、ということかな？

社会科ワークシート

11/16	11月16日	5年4組5時	渡口 菜由紀
-------	--------	--------	--------

＜授業に使用する工書＞

琉球漆器を、しらべる

琉球漆器

沖縄の琉球漆器は、おきなめり、たいしやく、つが、せんにや、せんにりよりみざいりょうとして、通して、ということかな？

琉球の漆器は、中国の漆器の作り方をとり入れて、発達してきました。

琉球の漆器が、中国にできていたため、将軍家、諸大名へのおくり物や、長門貿易のための大切な工芸品となりました。

文庫(5でん)

わかったこと

琉球の漆器は、中国の漆器の作り方をとり入れて、発達してきました。

琉球の漆器が、中国にできていたため、将軍家、諸大名へのおくり物や、長門貿易のための大切な工芸品となりました。

自己評価

7. 自己評価

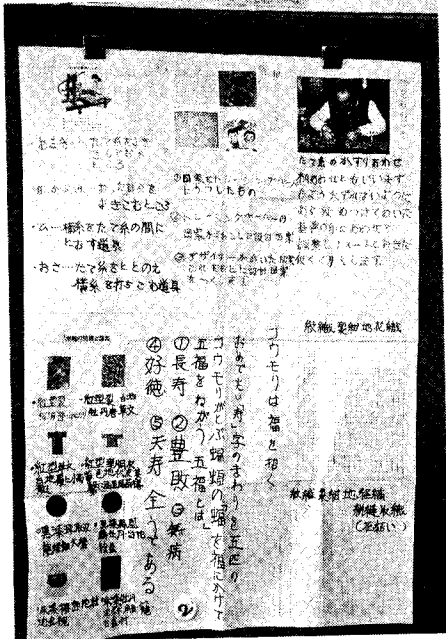
11月16日(土)「琉球に生きたる工書」(郷土の伝統工書) 名前 仲里 梨白			
今日の学習の評価をしましょう。	◎	○	△
A> 伝統工書の特徴や条件がわかりましたか？	◎		
B> 伝統工書を支える人の工夫や努力がわかりましたか？	◎		
C> パソコンや地図帳、資料集などを活用しましたか？	◎		
D> 調べてわかったことや思った事をレポートにまとめることができたか？		○	
E> 最初に学習できましたか？	◎		
F> 友達と協力できましたか？	◎		
G> パソコンを使った学習は楽しかったですか？	◎		
<感想>			
わかれは、パソコンはあーやういっくにいろいろのことをおしえてくれる、わかりませんでした。わかれは、すごいなーとおもいました。またつかうたいです。			

7. 自己評価

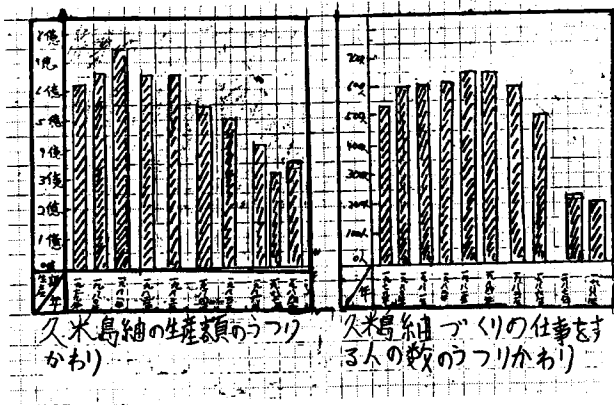
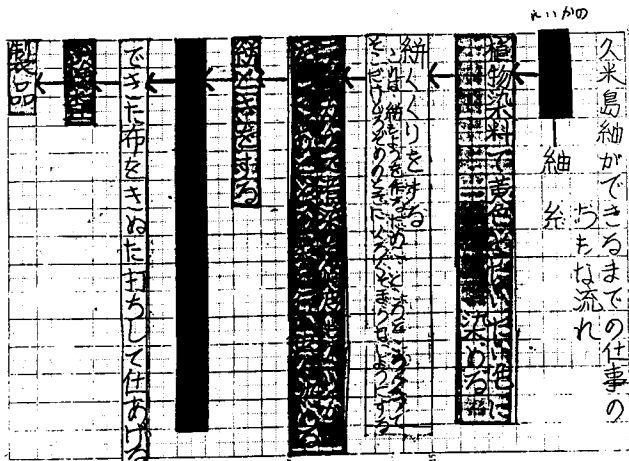
11月16日(土)「琉球に生きたる工書」(郷土の伝統工書) 名前 浅妻 次生			
今日の学習の評価をしましょう。	◎	○	△
A> 伝統工書の特徴や条件がわかりましたか？	◎		
B> 伝統工書を支える人の工夫や努力がわかりましたか？	◎		
C> パソコンや地図帳、資料集などを活用しましたか？	◎		
D> 調べてわかったことや思った事をレポートにまとめることができたか？		○	
E> 最初に学習できましたか？		○	
F> 友達と協力できましたか？		○	
G> パソコンを使った学習は楽しかったですか？	◎		
<感想>			
最新のパソコンは、すごい。いろいろのことが、おしえてくれる。いろいろのことが、おしえてくれる。いろいろのことが、おしえてくれる。			



● 壁新聞



● OHP

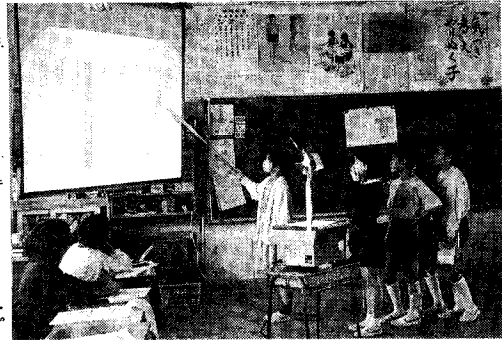


● 写真

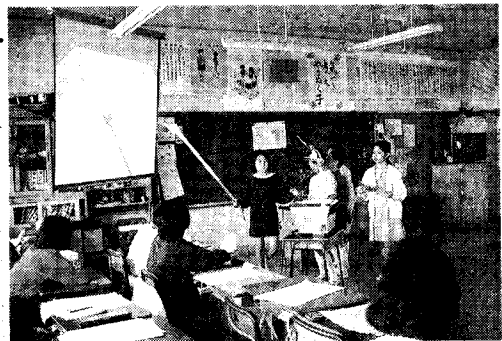


・隆二君もっと大きな声で!

● 写真



・とてもわかりやすいでしょ!

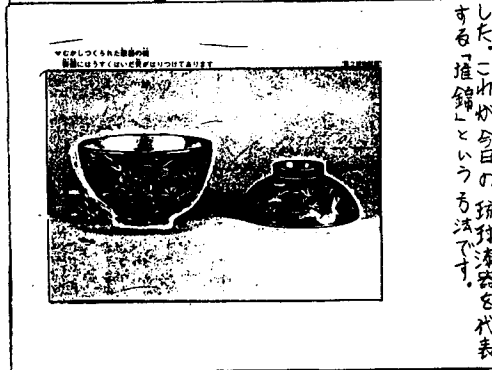


・え～これはですね～

### 琉球漆器の歴史

沖縄の漆器は中国漆器の作りちをとり入れて発達してききました。一六〇九年に薩摩(今の鹿児島県)に支配されるようになり、それから琉球王府が漆器製作所を直轄管理し、漆器の生産に力をいれるようになりました。沖縄の漆器は中国風にできていたため、将軍家(徳大寺)のおくり物や民間貿易のために大切な工芸品として扱われてきました。

その後、中国に何回となく技術者をおくり、螺鈿(沈金)・箔絵(箔)などのようにつけの技法を学んできました。一七二五年には地味赤黒(こう)の人(中国)のそぼく(なま)もよう(つけ)の技法から沖縄独特の美しい(も)よう(つけ)の技法を考へて(しま)しました。



### ガラス工芸のつくりがたについて

ガラス工芸のつくりがたについて、吹きガラス(吹きガラス)と引きガラス(引きガラス)のつくりがたについて説明します。

吹きガラスは、溶けたガラスを口で吹いて形を作り、たんぱん(たば)の(な)ま(な)を(ま)か(か)す(す)方法(は)つ(つ)く(く)る(る)方法(は)で(で)す(す)。

引きガラスは、溶けたガラスを口で吹いて形を作り、たんぱん(たば)の(な)ま(な)を(ま)か(か)す(す)方法(は)つ(つ)く(く)る(る)方法(は)で(で)す(す)。

### 琉球ガラスのつくりについて発表します

吹きガラスのつくりがたについて発表します。吹きガラスは、溶けたガラスを口で吹いて形を作り、たんぱん(たば)の(な)ま(な)を(ま)か(か)す(す)方法(は)つ(つ)く(く)る(る)方法(は)で(で)す(す)。

引きガラスのつくりがたについて発表します。引きガラスは、溶けたガラスを口で吹いて形を作り、たんぱん(たば)の(な)ま(な)を(ま)か(か)す(す)方法(は)つ(つ)く(く)る(る)方法(は)で(で)す(す)。

ガラスは、溶けたガラスを口で吹いて形を作り、たんぱん(たば)の(な)ま(な)を(ま)か(か)す(す)方法(は)つ(つ)く(く)る(る)方法(は)で(で)す(す)。

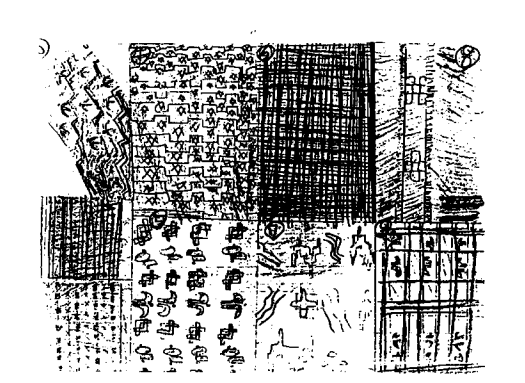
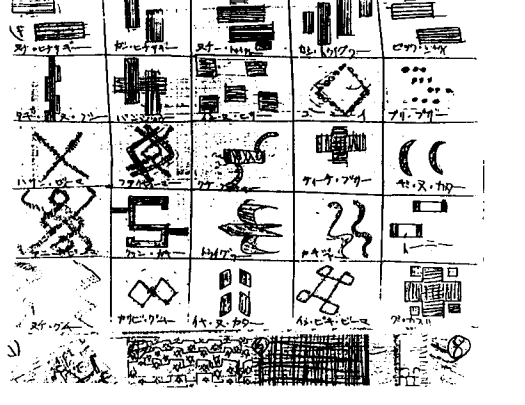
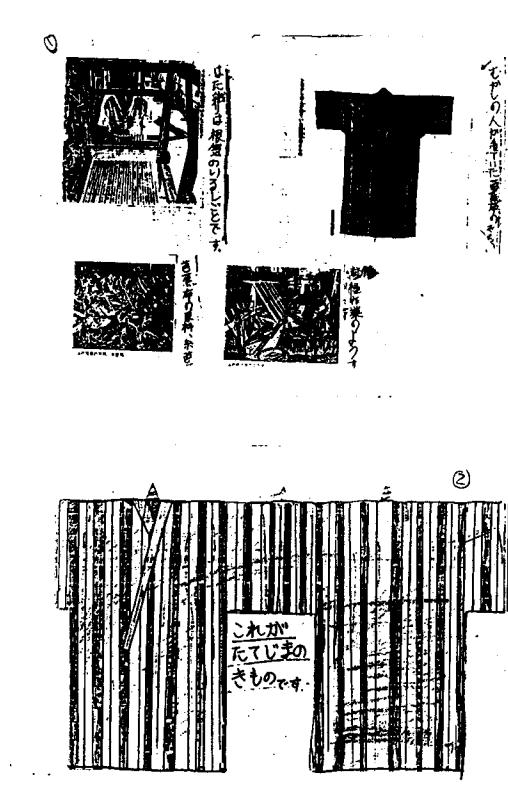
琉球ガラスのつくりがたについて発表します。琉球ガラスは、溶けたガラスを口で吹いて形を作り、たんぱん(たば)の(な)ま(な)を(ま)か(か)す(す)方法(は)つ(つ)く(く)る(る)方法(は)で(で)す(す)。



### わかったこと

琉球ガラスのつくりがたについて発表しました。吹きガラスのつくりがたについて発表しました。引きガラスのつくりがたについて発表しました。

● 紙芝居



● 写 真



・え〜紙芝居を初めます！（一生君）



・みんな作品をもちよってハイポーズ！

● 感 想

顔や学習を終えて  
 五年 吳屋 れりか  
 11月16日に嘉敷中学校で、パソコン授業を  
 しました。パソコンは、はじめて使うので、  
 とてもきょうがかりました。  
 私は、つばね焼きのパソコンをばい  
 りました。パソコンのキーボードをばい  
 りると、ボタン一つで、さもんがとけて、  
 がでたりして、とても、わかりやすかったです。  
 う、ぬがりなりと、あつがき先生  
 せ、ほかの、いろいろな先生方が、おしえて  
 下さいました。  
 私は、パソコン授業が、好きになりました。  
 嘉敷小学校も、早く、パソコンを、導入し  
 てほしいなと思います。そして、パソコン使  
 美をつくらせてほしいなと思います。

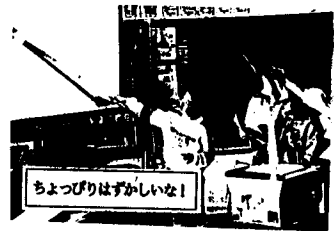


誰が一番チャームングかな？



わたしたち興入でしょ！

顔や学習を終えて  
 五年四組 高原 順  
 早くから嘉敷小の五年四組は十一月十六日  
 にパソコンを使って、沖縄の伝統工芸を調べ  
 ました。  
 私は、パソコンを使って、大ごがあまりな  
 いので、早くできるか心配でした。でも、思  
 ったよりいよすがに、楽しくできました。  
 ぼくは、うたかたさんとやアートを組んで、沖  
 縄のつばね焼きを調べました。パソコンの画  
 面は、虹型や、模様し、強直とかかかれています。  
 マウスというものを動かして調べることがで  
 きるので、楽しかったです。  
 つばね焼きは、五百餘年くらい前から続けられ  
 ていると、かぶくりにするのが得意、あげとや  
 ば、本にのって、いたるの、もありました。け  
 んと調べると、よりパソコンで調べた方がおもしろ  
 いなと思います。  
 またパソコンを使って、いろいろなお話を  
 調べたいと思います。



ちよつぱりはずかしいな！

## VI 研究のまとめと今後の課題

### 1. 研究のまとめ

- 個々の個人差に応じた学習指導を工夫すれば、子どもが生き生きと主体的に学習に取り組むことがわかった。しかし、個人差のとらえ方は、まだまだ不十分であり、学級担任とし子ども理解の重要性を実感し、個人差をとらえることの難しさを痛感した。
- 沖縄県の伝統工芸の学習を通して、子ども達が郷土の伝統工芸品に関心を持つようになり、先人の苦勞について気づき、郷土の文化に誇りを持つようになった。
- 学習内容の個性化のために自作ソフト[k i t 伝統工芸]を製作し、C A I学習を取り入れた。学級の実態や個々の個人差に配慮して、データベース的な活用にしたので子ども達が課題解決に意欲的に取り組んだと思う。学級の子達は初めてパソコンを使うこともあって興味・関心を示したのかもしれないが、これを契機に、課題解決の学習がますます好きになってほしいと思う。

### 2. 今後の課題

- ◆子どもの個人差に対応するためには、個々の生徒の理解が大切である。個人理解のための方法である観察法や、面接法等の研究を深め日々の実践に生かしたい。
- ◆C A I学習において既製の市販のソフトだけでは、子ども達の実態や個人差に対応するのは難しい。子どもの実態や個人差に応じる教材開発の研究を深めたい。

### 3. おわりに

この4カ月間の研修は大変意義深いものであった。研究はもちろんのこと、ここでたくさんの先生方に会えた。この出会いは教育研究所での4カ月間の最大の成果であった。ここで得たものを、大切に、これからの教育実践の糧としたい。最後に、研修の機会を与えて下さいました宜野湾市教育委員会、研修間中、直接、御指導していただいた伊波義雄指導主事、研究の中で親身に御指導していただいた宮城盛雄指導主事をはじめ、各指導主事の先生方、色々な面で御世話していただいた研究所の職員や研究員の皆様、資料提供などコンピューターの御指導をしていただいた県立教育センターの大城正指導主事、研究授業で御世話になった嘉数中の職員の皆様、この研修の機会を与えて下さいました仲里弘校長先生、あたたかい励ましをいただいた学年の先生方、応援し支えてくれた嘉数小の先生方、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

#### 《おもな参考文献》

山崎林平	社会科個別指導入門	明治図書	1985
熱海則夫	個人差に応じた新しい学習指導の展開2 社会	ぎょうせい	1989
有田和正	「追究の鬼」を育てる。	教育新書	1989
有田和正	授業のネタ社会3	日本書籍	1989
文部省	小学校教育課程一般指導資料3	東洋館出版社	1988
教育工学研究協議会	教育工学実践研究(NO.91~NO.104)	教育工学研究協議会	
池田龍之介	入門k i t	エーアイ出版	1991